

べんとぅ 振興協会 5周年機に価値訴求

(社)日本べんとぅ振興協会
(東京都新宿区、03・3
3366・1575)は9日
に神奈川県・芦ノ湖畔の
山のホテルで協会設立5周
年(創立15周年)記念大会



あいさつする安田定明会長

を開催し、関係者約110
人が参加して一層の発展を
誓った。同協会は前身団体
である日本べんとぅ工業協
会設立10周年の節目の02年
9月に発展的に解散し、同
年10月にコメの消費

を削減し、関係者約110
人が参加して一層の発展を
誓った。同協会は前身団体
である日本べんとぅ工業協
会設立10周年の節目の02年
9月に発展的に解散し、同
年10月にコメの消費

は減少してないが売価が
5〜6%下がり、売上高は
下がっている。こうした現
象をみると、500円、6
00円の価値ある商品開発
を推し進めることが必要で
ある」とし、価格から価値
への転換がご飯食推進の解
決につながる現状を分析
し、消費者の求める「バリ

ユ」への対応を促した。
同協会は05年に発足した
「食品微生物検査士制度」
をより充実させて業界の安
全を高めるとともに、パー
ト労働者確保に向けて外国
人研修制度を模索するな
ど、5周年を機に会員にも
消費者にも喜ばれる施策を
打ち出していく。

豊久農林水産省食品産業振
興課外食産業室長は「今年
4月から日本べんとぅ振興
協会は外食産業室の所管に
なった。現在、私どもはコ
ンプライアンスの徹底を唱
えている。5周年を記念し
て取り上げた「コンプライ
アンスセミナー」を機に、危機
管理を強化していただきた
い」とトップの危機管理の
浸透を促した。

拡大・ご飯の普及を
目的に食糧庁から公
益法人認可を受けて
協会を発足した。
記念大会で開催さ
れたトップセミナー
「食品会社の危機管
理―不二家の事例に
学ぶ」は新日本監査
法人CSR担当パー
トナーの公認会計士

「公益法人の大幅削減下で
認可から5周年を迎えた。
設立時は非常に厳しい状況
の中で石原義日本中央競馬
会副理事長(当時食糧庁長
官)はじめ大勢の方の支援
をいただいた。今後も一層
のご飯食の推進に努めてい
きたい所存である」と述べ
た。さらに、「食品業界は
世界的な食糧逼迫を受けて
原料の値上げ要請が相次い
でいる。CVSの直近の数
字をみると、弁当の販売数

は減少してないが売価が
5〜6%下がり、売上高は
下がっている。こうした現
象をみると、500円、6
00円の価値ある商品開発
を推し進めることが必要で
ある」とし、価格から価値
への転換がご飯食推進の解
決につながる現状を分析
し、消費者の求める「バリ

馬会副理事長は「18年度の
自給率は前年より1%落ち
て39%となった。コメ消費
の減少が大きい。皆さんに
はもっともっとがんばって
欲しい」と激励した。青山

野村悦夫(株)オイルミル
ズ会長の乾杯で和やかな懇
親となった。(福島厚子)
〈詳細は10月20日付特集〉